東方鋼龍記

冊子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
東方鋼龍記

【Ｎコード】
Ｎ９６１５Ｙ

【作者名】
冊子

【あらすじ】
神様の手違いによって死んだ主人公は東方の世界に転生することに。転生先は・・・〇〇〇〇〇〇〇・・・おいおい人間じゃないやんけ！！
（この作品は処女作です。まだまだ未熟なところばかりですがよろしくお願いします。）

第一話です（前書き）

駄作です

第一話です

俺はいつものように学校に行き

いつものように帰宅し

いつものようにＰＣを起動し大好きな転生モノの小説を読みまくる。

それから飯を食って布団に入る

転生したいな～・・・などと思いながら眠る

こんな毎日がずっと続く・・・・と思っていた時期が俺にもありました・・・

「ココは何処だ??」

目が覚めたと思うと辺り一面真っ白な空間

そして目の前に見た目１００歳くらいの長い白ひげの老人

（この人なんか神様っぽい雰囲気があるな～・・・待て待て待て、実際に神様なんている訳がない、これはきっと妄想のやり過ぎによって転生の夢を見ているに違いないな・・・・うん）

などと考えてる最中に目の前の神様?が

「すまんかった!!わしのせいでお主は死んだんじゃ!!」

（うんうん、そっか～、お詫びにチート能力とか貰って転生!!・・・・なんて事にはならないよな

・・・アレは二次元の空想のお話しだからな・・・これは夢なんだ・・・少し残念だ）

「いや、現実じゃ」

「またまた、そんな「現実じゃ」・・・いやいや「現実じゃ」マジで!?「現実じゃ」・・・ふむふむ、そうかそうか・・・ってことは俺は死んだの!?」

「・・・うむ」

「死因はなんですか?・・・・」

「死因はじゃな、わしの手違いで地震が起きてな、お主の顔の真上の天井が崩れて破片が眼球を貫き脳まで達して死んだんじゃよ・・・奇跡的に死んだのはお主一人じゃったよ」

「・・・そうか・・・とても悲しい死に方だな、死んだのが俺一人ってのもなんか悲しい。じゃあ俺はこれからどうなるんですか？」

「うむ、あの世に送っても良いんじゃがな。　お主転生したくないかの？」

「はいっ！！！転生したいですっ！！」

ってなわけで転生することが決まったのであった。

第一話です（後書き）

指摘などありましたらどんどん書いてください

第二話です（前書き）

主に設定などです

第二話です

俺は死んで転生することになった

「それで神様、どこに転生させるんですか？」

「うむ原則によってくじ引きできめるぞい！！」

神様が言った途端目の前に箱が現れる。箱には手が入る程度の穴がある

「よし準備完了じゃ、引いてよいぞ。」

「了解」

（禁書の世界は嫌だな、死亡フラグが多過ぎるし。安全なの来い安全なの来い・・・・・）

箱に手をツッコミ一番底の一番端っこの紙を引く・・・・・・書いてあったのは・・・・・・・

「東方ｐｒｏｊｅｃｔか」

（うむうむうむ東方か～なかなか楽しそうだな～、原作知識は微妙だけどな。　主要人物はほとんど女性だったはず・・・ふっふっふ俺の時代かふふふふふふ・・・・）

「うむ東方の世界じゃな、次は転生する種族じゃな」

また目の前に箱が現れる、しかしさっきより数倍でかい箱だ

「転生する種族？なんですかそれは」

「うむ、転生する種族は東方じゃたら人間やら神やら妖怪やらじゃな、じゃが虫や動物に転生することもあるからこれは大事じゃぞ！！」

（おいおいおいそれって普通に考えたら人間や妖怪になる可能性のほうがめっちゃ少ないやんけ）

「うむ、では引くのじゃっ！！」

「人間か妖怪人間か妖怪人間か妖怪出来れば妖怪できれば妖怪ブツブツ・・・・・」

ブツブツ言いながらも箱に手を入れる

「これだあああぁぁぁっ！！！」

一枚取り出して恐る恐る紙を開く・・・

結果は・・・・・・・

キタ――――（ °∀ °）――――！！キタ――――（ °∀ °）――――！！

妖怪キター

「おっしゃ～～～妖怪やんけ～～長生き出来るやんけ～！！」

「うむ、よかったの、うせいぜい退治されんようにの」

（・・・そうだった東方も死亡フラグ満載やった・・・まあいい）

「神様～転生ってチート能力くれるんじゃないんですか？」

「うむ、能力もくじ引きじゃから運次第じゃな」

「なんでもくじ引きですね～・・・いいですけど」

「うむ、よし次の設定決めじゃ。次は妖怪の中の種族決めじゃな」

また目の前に箱が現れる・・・めっちゃでかい・・・

「妖怪の中の種族？？なんですかそれは一体」

「うむ妖怪の中の種族はえーと鬼やら河童やら天狗やら大まかな分類じゃよ、ちなみにわしのオリジナル種族も入ってるぞい」

「なるほど。オリジナルの種族ってなんですか？」

「うむ、それはのう、わしの好きなゲームのモンスターやらなんやらじゃよ、これを引いたらラッキーじゃぞ、ほっほっほ」

（ふむゲームのモンスターかふむふむ、おもしろそうだ）

「じゃあ引きますよ」

面倒になってきたのでさっさと引く、そして紙を開く、そこに書いてあったものは・・・

「クシャルダオラだとっ！！最高じゃないっすか、モンハンで一番好きなモンスターじゃないっすか！！ひゃっほ～」

そう俺はクシャルダオラが大好きなのである！！

「うむよかったのう、ほれ次はお待ちかねの能力じゃぞ」

また箱が出てくる

（うむ能力は大事だね、強いのがくれば無双出来るかも・・・）

さっさと引いてさっさと開く

「速さを操る程度の能力か」

（まあまあかな）

「うむこれで設定は終わりじゃ。何か質問はあるか？」

「えっと記憶は引き継ぎますよね？」

「うむ、引き継ぐぞ。他にあるか？」

「いえ、もう結構です、いろいろありがとうございました」

「うむ、礼儀正しいやつじゃ、よし、行ってこい！！」

そして床が開く

「これはお決まりですかあああああぁぁぁぁぁぁぁぁぁ～～～っ・・・・・・」

俺は落下した

第二話です（後書き）

駄作過ぎて反吐が出ますがよろしく

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9615y/

東方鋼龍記

2011年11月29日00時46分発行